
スプリングガール

おじやしげき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スプリングガール

【Nコード】

N7406H

【作者名】

おじやしげき

【あらすじ】

ある晴れた春の日。突然に「センパイ」と呼んでくる女の子と朝、競走するようになった。なんでこの子はこんなに走らせようとしてくるんだろう……

(前書き)

電撃マガジンでの「電撃リトルリーグ」投稿作になります。テーマは「スプリングガール」。2000字以内ということで書きました。是非お楽しみください。

もうどれだけ走ったんだろう？どんなに走ってもまだ追ってくる。怖い。怖い。怖い怖い。なんで俺がこんな目に会う？なんで？どうして？俺が何をしたというんだ？もうイヤだ！もうやめろ！

振り向けない。振り向きたくない。なんでこんなに追ってくるんだ？早くあっち行けよ。こんなに速く走ってるのに！

「セーンプイ！今日も一緒に帰りましょうよ！」

なんでこんなに速いんだこいつは。今は退部したとはいえ俺は陸上部に入ってたから脚力には自信があるつもりだ。

それなのに、なんでこんな女に追いつかれるんだ？そして：

「ゴールインっ♪今日も私の勝ちですね、センプイ♪」
負けてしまうんだ…。

というような登下校を始めて早一週間。ここまで勝てたことは一回もない。

しかもこいつはこんなにフレンドリーに接してくるけどこいつのこ
と全く知らないし！

「センプイ？どうしたんですか？そんな難しい顔して。」

「というか、なんでお前はそんなに俺に付きまとうんだ。俺なんかよりかっこいい男とかどこにでもいるだろ。」

「もー、そんな釣れないこと言っちゃダメですよ、セ・ン・パ・イ！
私たち、こーんなに、ラ・ブ・ラ・ブなのに！」

「いや、俺、お前のことそんなに知らないし。」

「えー！センプイ、覚えてないんですか？あの事。ひどいなあ…。」
あのこと？何の事だ。そもそもこいつを初めて見たのが一週間前で、
走って追いかけてくるからとっさに走って逃げた時で…。

「もー、思い出してくれないならもういいです！それじゃ！」

：行ってしまった。うーん、月並みな言葉で表現してしまえば、

「女の子の考えることは本当によくわからんな。」って感じだな。

まあ、今日はいつも見たいに付きまとわれることもなく、普通に帰れるわけだ。

あー、よかったよかった。せいせいするな。さて、帰ってネットでもしよつと。

：結局あいつは何だったんだろう。そういえばこんなに走ったのってどれほど前だっただろう。

中学の頃はちよつと足が速くて、周りからも尊敬のまなざしで見られていたし、

高校でも部活に入った頃はいろいろ言われたものだった。

自分より遅い奴がくそまじめに練習しているのを傍から見ても馬鹿にして笑ったもんだった。

そんなに練習しても無駄なのに。そんなことしても俺には勝てるはずはないのに。

：そう思っていた。少なくとも去年の夏までは。

秋の新人戦の選抜記録会。俺は最下位だった。想像もしてなかった結果。目の前が真っ暗になったことを

臆げながら覚えている。なんで俺がこんな目に会う？なぜ？どうして？考えても答えは出なかった。

いや、分かっていたのかも知れない。ただ、認めるのが怖かった。認めてしまうと、自分の存在価値が無くなってしまふような気がする。

自分というものが消えていってしまうような気がして。

それから、俺は部活に行くことを止めた。別に未練なんかなかった。もうどうでもよかった。部活にはもう自分の居場所はない。

「センパイ、覚えてないんですか？あの事…。」

全く思い出せなかった。どこかで見たことがあるようにでない顔立ち。あの活発で人懐っこい笑顔。

…あれ？どこかで見たことがあったかな…？なんとなくではあるが懐かしい感じがする。

「センパイ、覚えてないんですか？あの事…。」

この言葉が頭から離れない。何かあったのか？あの子と俺に何かあったのだろうか。

そう思いながらも夜が明けていく。彼女との競争がまた今日も始まる…。

「センパイ、思い出してくれましたか？」

「いや、思い出すも何も、覚えてないし」

…

突然起こる沈黙。普段と変わらない感じで言ったつもりだった。

「ひどい…。先輩、あの時の約束、忘れちゃったんですね…。」

「え、な、なんのこ…」

「約束したじゃないですか！高校で、インターハイで優勝するって！私も走りたいって言ったら、同じ高校に入れたら教えてあげるよって！」

私、頑張ったのに！先輩に負けないように、毎日トレーニングもした！私バカだから、先輩と同じ高校に入るために勉強も！それなのに、それなのになんで…」

ああ、そうだったっけ。こんなこと忘れるとか、どうかしてたな、俺。そうだ、中学の時の部活のマネージャーだった彼女。

女子の陸上部がなかった学校だったから、男子陸上部のマネージャーになったんだっけ。

「私、先輩が楽しそうに走ってるのが大好きだった！走ってる時の顔が好きだった！

先輩が、高校でも陸上して、インターハイ行ってくたって言った時の顔も素敵だった！

それなのに、陸上部にもいないみたいだし、なんで、なんで…。」

「ごめん、なんか、大切な事忘れてたみたいだ、俺…。俺、もうちょっと頑張ってみるよ。」

「それでこそセンパイですよ！よし、私も頑張らないと！いろいろ教えてくださいね！センパイ！」

彼女との競争しながらの登下校も、まだまだ続きそうだ。

「センパイ？早くしないと置いてきますよ～！早く早く！」

(後書き)

さて、2000字以内ということで、結構頑張って書きました、が、ちよっと収まってない感じになってしまいましたorz

今回は春の募集だったので募集側はスプリングⅡ春を想定してたと思うんですが、今回はスプリングⅡばね、陸上選手はスプリンターっていうので、陸上の話にしてみました。まあ、自分は剣道、弓道が専門で陸上なんてできないんですがw

楽しんでいただけたでしょうか？楽しんでいただけたら幸いです。もしそうでなければ……あ、石は、石だけは投げないで……

それでは、また別の作品でお会いしましょう！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7406h/>

スプリングガール

2010年10月16日18時36分発行